■シリーズ■

中学校武道 ――授業の充実に向けて 162

つまずきをどう克服したか㊺
（剣道の理解を深めるために銃剣道授業を体験～違いを楽しもう～）

学校法人翔英学園　米子北斗中学校教諭
妹澤（せざわ）　光将（みつまさ）

本校は、武道授業で採用している剣道をさらに深めるために4年前から銃剣道も実施しています。いずれの武道も名前に「剣道」の文字があり、防具姿もよく似ているのですが、その背景や特徴は大きく異なります。その「違いを楽しむ」ことで、生徒一人一人が多様性を受け入れ、健やかに育ってくれることを期待しています。

今回は、全国でも数少ない銃剣道の授業を本格的に実践した本校の取り組みを紹介します。

1 本校の特徴

本校は昭和63（1988）年、鳥取県で初めて設立された私立の中高一貫校です。1学年2クラスの少人数授業を展開しており、大半の生徒が大学進学を目指しています。

校訓に「自学自律」を掲げ、自ら学習し、考え、判断し、責任を持って行動する力を身につけることを柱に、「知・徳・体」の調和のとれた人間の育成を目指しています。変化の速い、かつ多様な現代社会の中で、困難な課題を解決する「生きる力」を身につけ、社会の各分野において指導的役割を果たす人材に育てるため、日々の教育活動を行っています。

2 剣道導入の背景

平成20（2008）年3月に中学校学習指導要領が改訂され、第1、第2学年の保健体育で武道が必修になることが明記されました。そして、24年度からの完全実施に向けて、本校も約2年をかけて準備を進めました。

剣道を導入するにあたり、大きく三つのポイントを検討しました。

一つ目は安全面です。24年の時点で、鳥取県米子市内の中学校は本校以外のすべての学校で柔道の導入が決定していました。しかし、当時の県教育委員会の報告では柔道の授業時の事故件数が20件となっていました。本校は安全の確保、私立校としてどこまでリスクマネジメントができるのかに重点を置いて検討しました。

二つ目は施設・用具面です。本校は武道場がなく、柔道を採用するには畳の購入から考える必要がありました。しかし剣道ならば既存の体育館がそのまま活用できます。

また、用具は学校が購入することにしました。1年目に竹刀（しない）約60本、面・小手・胴・垂（たれ）は1年目に10組、2年目に10組、合計20組を購入し、3年目以降も計画的に購入を進め、今では生徒全員分の防具がそろいました。さらに防具の使用に関しては、面下、小手下を着用することで衛生面にも配慮しました。

三つ目は指導者です。必修化を前に、体育科教員全員が剣道の指導者研修に参加。加えて有段者である本校の剣道部顧問による専門的指導を実施しました。授業内容をより深めるため、体育科教員2名と剣道部顧問1名の計3名によるティームティーチング方式で実施することにしました。

3 剣道授業の実践

平成24年度からの完全実施に合わせて剣道の授業を開始し、10年が経（た）ちました。学年の授業展開は1学年で主に基本動作を学び、2学年で防具を着用します。

【授業内容】

▼1学年

1年生の学習では、礼法や安全に対する心得を理解し、構えや素振りなどの基本動作を正しく身につけることを目標にして授業を進

＜指導計画＞

▶剣道（1・2年生）

	1年生	2年生
1時間	礼法指導 （立礼、座礼、左座右起、蹲踞（そんきょ））	礼法指導 （立礼、座礼、左座右起、蹲踞）
2時間	足さばき	素振り（正面、左右面、上下、跳躍素振り）
3時間	竹刀の名称の説明	防具の説明・着用
4時間	素振り（正面、左右面、上下、跳躍素振り）	防具を着けての素振り
5時間	ボールたたき・新聞切り	防具を着けての面打ち

▶銃剣道（1年生）

1時間	1.銃剣道の特性・歴史の説明 2.礼法指導 3.木銃の持ち方	4.構え、直れ、足さばき 5.突き
2時間	1.役割分担 2.「的当てゲーム（ボール突き）」 3.表彰	
3時間	1.構え、直れ、足さばき 2.「突き体験（防具を着けた指導者を直接突く体験）」 3.代表生徒の実演披露	

めました。

礼法指導では、「立礼」と「座礼」を学習し、左足から座り、右足から立ち上がる「左座右起」を毎時間のあいさつに取り入れました。竹刀を持つ前には、剣道特有の足さばきを学習し、指導者の掛け声に合わせてうまく足をさばき、前後左右に素早く移動することができるようになりました。

その後、竹刀を持って4種類の素振りを学習しました。全体練習の後は、グループごとに掛け声をかけて4種類の素振りの練習を自分たちで行い、生徒の自主的な学習を進めました。

素振りに慣れてからは「新聞紙切り」に挑戦しました。2人一組になり、1人が新聞紙の両端を持ち、もう1人が新聞紙をひと振りで真っ二つに切ります。竹刀を素早くまっすぐに振れていないとうまく切れませんが、勢いよく竹刀を振り、きれいに新聞紙が切れると生徒から喜びの声が上がり、成功体験に繋がったと思います。

【剣道】新聞紙切りに取り組む生徒たち

▼2学年

2年生では、礼法や相手を尊重する気持ちなどの剣道の伝統的な考えを理解し、「防具」を使用した基本打突を身に付けることを目標にして授業を進めました。

初めに1年時に学習した内容の復習をした後、防具の着用を学習します。それぞれの防具の名前や防具の意味を理解したうえで、自分一人で素早く防具が着用できるようになるまで練習をします。最初は素早い着装が難しかったものの、グループでアドバイスをしながら取り組むことで、着装が徐々に早くできるようになり、生徒たちも積極的に授業に参加できるようになりました。

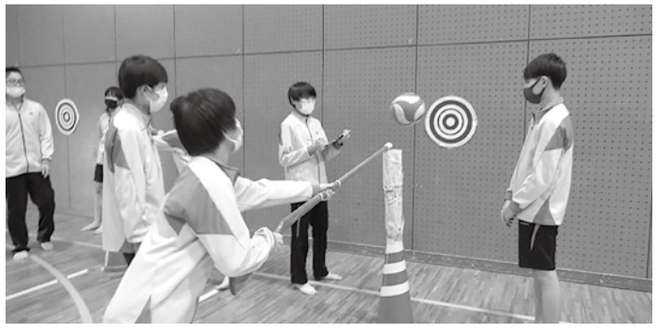
その後、防具を着用しての素振りの練習をします。初期段階では、防具の重さからうまく素振りができない生徒が多くいました。しかし、時間数を重ねるにつれ、素振りもうまくできるようになりました。

最後は、実際に防具を着けた相手の面を打ちます。最初は相手の頭を打つことに抵抗があったようですが、「正確に打突部位に当たった方が痛くない」と教員が丁寧に指導することで、強くかつ正確に面打ちを行うことができるようになり、本格的な剣道の動きを身に付けることができました。

4 銃剣道授業導入の背景

平成30（2018）年度、剣道の授業が軌道に乗ってきた時、鳥取県銃剣道連盟から、銃剣道の「ゲストティーチャー」の話がありました。本校では過去に銃剣道を習っていた高校生がおり、国体出場者も輩出するなど、銃剣道との関わりは以前からありました。

【銃剣道】木銃の持ち方・足さばき



【銃剣道】的当てゲーム（ボール突き）

ができる。

昨年10月に1学年31名で剣道の授業を5時間実施した後、今年3月に銃剣道の授業を3時間実施しました。事前学習として、銃剣道のDVDを視聴し、イメージを持たせました。生徒たちは先に剣道の授業に取り組んでいたからか、銃剣道に非常に興味を持ち、「早くやりたい」「面白そう」などと意欲的な声が上がりました。

木銃はすべての生徒分を鳥取県銃剣道連盟に準備していただき、講師の先生も毎回2～4名来校されました。

生徒は、剣道の授業で立礼、座礼、左座右起などの礼法を実践していたので、違和感なく素早く取り組むことができました。また、足さばきは剣道が「右足前」に対し、銃剣道が「左足前」ということで、その違いを理解することができました。講師の指示に従って素早く移動する練習では、右の手足と左の手足の動きを間違えたり、バランスを崩しそうになったりしながらも、楽しく取り組んでいました。

実際に木銃を持った時はその重さに驚いていましたが、すぐに慣れ、DVDで見た姿勢を早速やってみる生徒が多くいました。

的当てゲームでは、三角コーンの上にバレーボールを乗せ、狙い

さらに、剣道をより深く学ばせたいという思いもありました。ルーツや構えなど異なる部分もある銃剣道を学ぶことで、生徒たちに新たな発見をしてもらいたい、特に「違いを楽しんでもらいたい」と考え、銃剣道の授業を行うことにしました。

また、本校の特徴として、体育だけでなく、さまざまな教科や探究学習、ロングホームルームなどで外部講師の方に授業をしてもらう機会があり、生徒たちは本校の教員以外の授業でも違和感なく取り組むことができています。

5 銃剣道授業の実践

【授業のねらい】

①銃剣道の歴史や特性を理解し、銃剣道に対して興味・関心を持つことができる。

②礼法を理解・尊重し、意欲的に活動することができる。

③木銃の取り扱いに留意し、周囲の安全に留意して行動すること

好評発売中！

埼玉大学名誉教授 大保木輝雄（おおぼきてるお） 著

剣道 その歴史と技法

剣道の歴史・技法を戦国期から現代まで時代を追ってわかりやすく解説。

四六判・上製・516頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

（公財）日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
https://www.nipponbudokan.or.jp

【銃剣道】指導者による模範演武を見学

【銃剣道】突きの体験

を定めて木銃でボールを突き、得点を競いました。グループごとに木銃で突く人、ボールを乗せる人、ボールを拾う人、得点を確認する人などの役割を分担して取り組みました。練習ではできていたけれど、本番では力が入ってしまったり、強く突き過ぎてボールの中心をとらえることができなかったりする生徒がいましたが、まっすぐに木銃を突き出すポイントを体感することができました。ゲーム性もあり、生徒たちはとても楽しそうに取り組んでいました。

突き体験では、指導者4名が来校し、防具を着けた指導者の部位を生徒が実際に突く体験をしました。強い突きを意識するのではなく、正しい姿勢で突くことに重点を置き、「やー」という声を出して突きました。何度も突いていくうちに慣れてきて、自然に足を強く踏み込む生徒も出てきて、本格的な動作になってきました。

正しい姿勢で突いている生徒4名には、みんなの前で模範演技をしてもらいました。

最後に、指導者同士の試合を披露していただき、その迫力に生徒たちは圧倒されながらも、笑顔で楽しんでいました。

【生徒の感想】

・剣道と違い最初は戸惑ったが、慣れてくると良い突きができるようになった。

・剣道という名前は同じでも、大きく違うことが分かった。

・とても楽しかった。来年もやってみたい。

・防具を着けて試合をしてみたい。

・ボールの中心を突くのが難しかったが、楽しく銃剣道が学べた。

6 まとめ

「違いを楽しもう」という目標を立て、剣道の発展型授業として銃剣道を実施しました。生徒たちは竹刀から木銃に持ち替え、銃剣道授業のさまざまな場面で剣道との違いを体感することができました。特に競技上の違いだけでなく、歴史的背景や特性、発祥地なども教えてもらうことでそのルーツの違いを探ることもできました。その結果、剣道の授業内容がより深まったと言えるのではないかと感じています。

本校は体育科の目標の一つに、「生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指す」と掲げています。生徒たちの将来のためにはさまざまなことを体験したり、触れたり、学んだりすることが不可欠であり、その中で銃剣道を実施し、「違いを楽しむ」ことを体感できたのは、今後の人生の中で、自己に固執した考えや先入観から脱却する一つのヒントを得られ、自分の中にある既存の価値観のアップデートにつながったのではないかと感じています。

今後も、剣道に加えて銃剣道の学習を取り入れる活動を継続し、「違いを楽しむ」ことで多様性を受け入れる生徒たちを育てていきたいと考えています。

最後に、鳥取県銃剣道連盟の皆様に心よりお礼を申し上げます。